

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

私の街の税金の使われ方

宮崎市立広瀬中学校

二年 小川 竜暉

七月、私の家に一通のはがきが届いた。それはHPV予防ワクチン接種費用の全額助成が始まったことを知らせるはがきだった。HPVとは子宮頸がんや咽頭がん、肛門がん等多くの疾患の原因になるウイルスのことだ。

子宮頸がんについては学校で習っていたので知っていたが、なぜ男子もワクチンを接種した方が良いのかと疑問に思った。はがきにはこう書いてあった。ワクチン接種を受けることで、自分自身だけでなく、大切な女性の命も守ることができるそうだ。

本当なら自己負担で約五万円もかかる高価なものが、期間中は無料で接種できるらしい。それは宮崎市の税金の使われ方に起因することが分かった。東京では全ての区で費用助成を実施しているこの取組みを宮崎市では九州で初めて費用助成の実施にふみ切った。そのおかげで私はこのワクチンを接種することができた。

このことをきっかけに私は宮崎市の子どもに対する税金の使われ方について調べてみることにした。すると宮崎市こども計画が策定されていることが分かった。宮崎市こども計画は令和七年度から令和十一年度までを期間とする取組である。こども計画は、こども基本法において市町村での策定が努力義務とされており、子ども・若者の成長と子育てを支援する取組みを総合的に推進するものだ。宮崎市では「こどもまんなか社会」の実現を目指す指針になっている。つまり宮崎市では子育てや教育に力を入れていることが分かった。その中には子ども食堂の運営に関する支援や子ども支援員の配置、大学受験料補助などの幅広い子ども世代への支援があった。

私は予防接種をきっかけとして私たちの健康な暮らしや生活には税金が使われていることを知った。

私は将来、自分や家族の命を守ることに繋がればという思いで、ワクチンを接種した。我が宮崎市の清山市長は、医師免許証を持つ医療専門家でもある。清山市長が将来の私たちの健康と幸せに先行投資して下さったのだと思うと大変ありがたい。

現在、子供数が少ないことが社会問題の一つになっているが宮崎市の税金の使われ方を知ると宮崎市の人に対して「安心して子供を持って欲しい。」と声を大にして言いたい。

これからは税金を払ってくれている大人に感謝し、大人になったときに税金が高いと思いつながりながら払うのではなく、将来を担う子ども達の役に立っているということを誇りに思いながら税金を納めたいと思う。